

渡邊久子先生講演会

「災害がもたらしたものの」

～これまでそしてこれから～

東日本大震災から十二年

震災と復興による経験と歩みは

この地の記憶として大きく刻まれ

そしてそれは「日常」となり

私たちの生活の中で、今も「共に」生きています

地震、水害、感染症…

次々とやってくる新たな災害は

ここで暮らす私たちの記憶を揺さぶり

時にこころや身体にも変化を起こします

震災は、何を残し、何を気づかせてくれたのか

そして未来にどうつながっていくのか

私たちは震災のあったこの街で

これからも暮らし、産み、育て、育っていく

リアルな体験のある大人と

リアルな体験のない子どもたちに

震災はどのような形で響きあっているのでしょうか

これまで、そして、これからを振り返り

老若男女、障がいや病気を抱える人もみな

この地で、ともに生きるための知恵と備えを

小児精神の専門的立場からお話していただきます



慶應義塾大学医学部を卒業後小児科、精神科、神経内科、精神分析を学び専門は小児精神科医学、精神分析学、乳幼児精神医学。慶應病院小児科常勤講師として、思春期やせ症、被虐待児、自閉症、PTSD（心的外傷後ストレス障害）など、工業化社会の複雑なストレスを生きる子どもの治療にあたる。現在渡邊醫院副院長。いわき放射能市民測定室たらちね顧問。世界乳幼児精神保健学会理事、日本乳幼児精神保健学会会長。東日本大震災後の福島県、バングラデッシュのロヒンギャ難民キャンプ、ロシア侵攻下のウクライナの子ども支援者を支援している。

【渡邊久子先生講演会申込書】

所属等			
連絡先	電話	Email	
参加者	職名等	氏名	その他

FAX
0193-62-7422



こちらのQRコードからもお申込みできます。